

研究内容の説明文

説明用課題名* (括弧内は申請課題名)	献血ルームの室内環境が献血に伴う気分不良症状の発生に影響を与えるかの追跡調査 (献血ルームの環境が血管迷走神経反応の発生に及ぼす影響)
研究期間	2026年4月1日～2027年3月31日
研究機関名	東京都赤十字血液センター
研究責任者職氏名	事業推進二部医務課 非常勤医師 橋爪龍磨

※献血者に対しても理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

献血の前後や献血中にご気分が悪くなること（副作用）があります。その原因の大多数は血管迷走神経反応（VVR）により血圧・脈拍低下による症状です。東京都赤十字血液センターでは、過去に有楽町献血ルームのVVR発生率が献血ルームの改修により低下したことを確認しました。

今回はその後の追跡調査になります。その後の10年間のVVR発生率を施設ごとに比較し検討することで、献血ルームの環境がVVR発生にどの程度影響を与えているのか、その理由として考えられるものは何かを探り、各施設で対応可能な要素を導き出します。その要素を取り入れることが出来れば、全施設での気分不良症状の予防に貢献できるのではないかと考えられます。

2 使用する献血者の試料と情報の項目

献血者の試料の種類： なし

献血者の情報： 2013年4月～2023年3月までに東京都内で献血された方の性別・年齢・身長・体重・循環血液量・献血歴・過去VVR歴・献血種別・献血場所

3 共同研究機関及びその研究責任者氏名

《献血血液等を使用する共同研究機関》

該当なし

《献血血液等を使用しない共同研究機関》

該当なし

4 献血血液等を利用又は提供を開始する予定日

2026年6月11日

5 方法《献血者の試料・情報の使用目的・使用方法含む》

《研究方法》

2013年4月から2023年3月までの10年間、東京都センターの各献血ルームでのVVR発生率を比較するための過去を起点として経過を観察する研究（コホート研究）を行います。

統計的な処理方法として、機械学習を用いて、性別・年齢・身長・体重・循環血液量・献血歴・過去VVR歴・献血種別の各要素について個人の影響を除きVVR発生

確率（周辺確率）を献血ルームごとに求めます。

求めた VVR の発生確率と献血ルームの環境に関する傾向を相対的にグループ分け（性質の似た要素をグループ化し解析を行う方法：クラスター分析（k-mean 法））することで、献血ルームの持つ要素から共通する環境要因を明らかにします。

6 研究の対象とされることへの拒否について

ご自身のデータの利用を拒否することができます。拒否する場合には 2027 年 1 月 31 日までに下記メールアドレスまで申し出て下さい。

7 上記 6 を受け付ける方法

下記の問い合わせ先に、データの利用について拒否する旨を申し出ください。

所属	東京都赤十字血液センター
担当者	難波 寛子
電話	03-5272-3532
Mail	n-namba@ktxs.bbc.jrc.or.jp